

小中一貫教育

1 目 標

子どもの「中1ギャップ」の解消に努め、小・中学校間の円滑な接続を図るとともに、小中学校の教職員の教育観の变革，指導力の向上を図る。
また，ふるさと薩摩川内に学び，ふるさとを知り，ふるさとを愛し，将来にわたってふるさとに貢献しようとする子どもを育成する。

2 内 容

- (1) 4・3・2制の教育段階
前期(小1～小4)・・・中期(小5～中1)・・・後期(中2～中3)
9年間を見通した，各教科等の指導計画の構想・作成
目標に照らし，特に中期に重点を置いた各教科等の指導の展開
- (2) 教科「コミュニケーション科」の創設
- (3) 「小学校英語教育」の充実

3 具体的な活動

- (1) 4・3・2制の教育段階
教師の授業交流
中学校の教師が専門性を生かして小学校で指導を行ったり，小学校の教師が中学1年生に小学校の学習を思い起こさせる指導を行ったりする。
児童・生徒の交流活動
学校行事や学習活動を合同で実施したり，互いに参加し合ったりする。
- (2) 教科「コミュニケーション科」の創設
目標
自分を取り巻く人，社会，環境とのかかわりの中で，「自己表現力」「人間関係構築力」など，他教科等との関連を図った確かな言語力に基づく「コミュニケーション能力」を育成するとともに，社会の中でよりよく生きようとする意欲や態度を養う。
育てる4つの力
・望ましい人間関係を形成する力（人間関係構築力）
・自分の思いや考えを効果的に表現する力（効果的に表現する能力）
・豊かな言語力をもとに，互いの思いや考えを伝え合う力（互いに伝え合う能力）
・よりよく生きるために，意思を決定したり将来を設計したりする力（よりよく生きようとする力）
- (3) 「小学校英語教育」の充実
目標
外国語（英語）を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。
年間時数及び内容
・前期前半(小1・2年) - 年間10時間(文科省承認，教育課程特例校制度)
英語の歌，ゲームなどの音声を中心とした活動を通して，身近な単語の意味や慣用的な表現に慣れ親しませる。
・前期後半(小3・4年) - 年間25時間(文科省承認，教育課程特例校制度)
基本的なあいさつや歌，ゲームなどの音声を中心とした活動を通して，簡単な単語の意味や慣用的な表現に慣れ親しませる。
・中期前半(小5・6年) - 年間35時間，学習指導要領「外国語活動」標準授業時数)
簡単な慣用句や表現を使い，文字を取り入れた活動も取り入れながら，自分の思いや考えを伝える体験を通して英会話に慣れ親しませる。